

事業の背景・目的

国内希少野生動植物種ヤツガタケキンポウゲは、本州中部山岳の八ヶ岳の固有種であるが、自生地が極めて限定的で個体数も少なく、集団の存続が危惧される状態にある。その存続危険性の主要因としては、こうした産地局限に加えて、近年ニホンジカの食害影響が顕著となっている。そのため、本事業では、ヤツガタケキンポウゲ野生個体群の消失を緊急措置的に防ぐとともに、今後の保護増殖に向けて本種の分布情報・生態学的特性など基礎情報を収集する。



事業の内容

防鹿柵設置事業

前年度の実績に基づき、登山道で運搬しやすい軽量の資材による簡易防鹿柵を設置した。あわせて設置個所へのニホンジカの接近・採食状況をセンサーカメラで撮影した。また、初年度、2年度目に引き続き、今年度も既知残存集団周辺で分布状況調査を実施した。

八ヶ岳地域希少野生動植物種の保全体制検討事業

本事業地周辺には、本種以外にも国内指定希少野生動植物を含む希少な高山植物等が多く生育することから、高山植物の生息域外保全に取り組む研究者と本種を含む今後の保全のあり方について協議等を行った。



設置した防鹿柵



設置した防鹿柵の高さ

得られた成果

分布状況等調査の結果、初年度、2年度目までは自生集団は1集団のみ確認していたが、R5年度にこの既知集団の周辺で新たな2集団（崖上およびわずかに地上部）を確認することができ、集団数が1地域1集団から1地域3集団に増加した。

現在の残存集団のうち、ニホンジカ食害が懸念され、特に開花個体が集中する区画（約3m×3m）について、樹脂ポールと獣害防止ネットで囲み、防鹿柵とした。柵高は、本種の生育に支障のない約1mとした。柵内には、本種の開花個体10個体（未開花個体は多数確認）が生育し、その後、柵設置後の採食は見られず、結実が確認された。

